



## 「性」に関する講話からの学び

2日と3日に、本年度の「性」に関する講話が学年別で行われ、発達段階に応じた話がなされました。講師は、次の方に務めていただきました。

学年	講師	
第1学年	宮崎か母ちゃっ子くらぶ 助産師	白池 晶様
第2学年	ヴィアマテラス宮崎 サッカー選手	齊藤夕眞様
第3学年	宮崎市郡医師会 助産師・看護師	上村 愛様

それぞれの講師の方が、ご自身が経験してきたことや向き合ってきた「性」や「命」の大切さについて語られ、どの学年の生徒も、熱心に聞き入っていました。

第1学年、第3学年では、助産師という「命の誕生」に立ち会うことが日常の方の話でしたので、多くの命に関わってきたという経験を踏まえ、この世に生を受けた全ての人が必要な存在であり尊重されるべきであること、性への関心が強くなる中学生の時期に、どのように相手に接していくべきかなど、個々が考えるべき課題を投げかけていただきました。

第2学年では、ご自身が生きてきた幼少期からこれまでのことを振り返りながら、多様性について話をされました。多様性が認められる時代であってもひとりひとりが多様性を理解し、受け入れる力が備わらないといけないことを考えたとき、中学生にも取り組めることとして「アウトティングを絶対にしないこと」が提案されました。

「アウトティング」とは、「本人が公にしていらない性的マイノリティであるということ、勝手に言いふらすこと。」を言います。「違いがあって当たり前、みんな違ってみんないい。」という講師の願いにもあるように、性的マイノリティーに限らず、日常生活や学校生活の場面でも言えることだと思いました。講話全体を通して、たくさんの言葉が心に残りました。最近の宮大附属中学校と照らし合わせ、考えてほしい言葉を1つ紹介します。



いま生きてるだけで100点満点!



齊藤夕眞選手のサインをいただきました。校長室にありますので、見に来てくださいね。

一人一人が自分らしく生きていくためには、相手を尊重したり、尊敬したりする支持的な風土が大切です。学校や学級の中に、いやな雰囲気はありませんか？困っている人はいませんか？正義が貫ける学校・学級だと自信がもてますか？

1学期前半終了のタイミングで、現状を深く見つけ、考え、自分ごととして改めることが大切です。

## 休業中は健康と計画性重視で！

まだ梅雨明けが発表されていないにも関わらず、この1週間は、日中の最高気温が35℃を超える猛暑の日が続いておりました。さらに7月に入って県内では、コロナウイルス感染症が増加傾向にあることが報道されており、必要に応じたマスク着用と、熱中症予防という相反する対応が求められる場面が増えています。特に登下校時や体育の授業等においては、国からの通知に基づき「熱中症のリスクを避けるためにマスクを外す指導」を継続しております。

しかしながら、不安を感じる生徒や保護者がおられることも事実で、マスクを外すことをためらう生徒の姿も見られます。当然、マスクを外すことを強いることはできませんので、熱中症のリスクを軽減するために途中で水分補給をさせるなど、先生方には配慮をしながら指導をしてもらいました。

いよいよ本日で1学期の前半が終了します。

1か月以上の休みを迎えるに当たって毎年願っていることは、1学期の後半開始時に、誰一人けがをしただり、事件や事故にまきこまれたりすることなく、笑顔で元気に登校してほしいということです。

私が教育委員会に勤務した期間に、担当する地区で水難事故や交通事故で亡くなった児童生徒が複数名います。家族や先生方、友人の悲しみはいかばかりかと心を痛めた記憶がよみがえってきます。

そこで、この時期には、保護者の皆様に対して「自分の命は自分で守ること」を子どもに意識させる具体的な指導をお願いしています。

学年や学級でも、健康や安全指導についてはこれまでも実施しているところです。大きく以下の3点を家庭でも十分に話してみてください。

- 安心・安全を担保する具体的な指導
  - 水難事故・熱中症・交通事故の防止
  - 夜間外出等の危険性（非行・性被害等）
  - 心無い言動やいじめ（SNS等でのトラブル・誹謗中傷）
- 多様な経験を奨励する具体的な指導
  - 規則正しい生活の順守
  - 部活動や習いごと、趣味・特技の伸長
  - 各種コンクールや作品募集への挑戦
  - 家族の一員としての役割の設定
- 困りごとが生じたときの具体的な指導
  - 保護者による変化の察知と相談の在り方
  - SOSを出すことの大切さ（様々な機関があることの周知）



24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310 (なやみ言おう)

また、夏季休業中は、日常生活の中でなかなか経験できないことに挑戦することができる時期とも言えます。家族や友達で楽しむことや、上の2に示したような学びの機会を自ら見つけ、ぜひ挑戦してください。例年、各種コンクールや作品募集で、すばらしい成果を残す生徒がいることは、本校のすばらしさだと感じています。充実した毎日になることを願っています。